

令和5年11月14日

報道機関各位

長岡市和島支所産業建設課長



スマホ片手に“ふら和島”しませんか？

QRコードから歌碑の解説動画が視聴できる！ 秋の和島で良寛の歌碑と美術館を巡ろう

このたび、良寛の里美術館やはちすば通りに建立されている歌碑などに解説用QRコードを13基設置しました。スマートフォンなどで現代語訳や解説動画を視聴でき、晩秋の和島を歩きながら、良寛の詩歌を分かりやすく楽しめます。

また、良寛の里美術館では、11月18日（土）から、良寛の魅力にせまる企画展がスタートします。この企画展では、新たに美術館内でも所蔵資料を詳しく解説する映像がご覧いただけます。

つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、周知にご協力いただくとともに、ぜひ、取材くださるようお願いいたします。

スマホを片手に歌碑めぐり

道の駅良寛の里わしま～はちすば通りにある歌碑などにQRコードを13基設置。歌碑に刻まれた詩歌の現代語訳や解説を音声や映像で分かりやすく視聴できます。（歌碑の所在は別紙「はちすば通り良寛碑めぐり」を参照。※マップの②③④⑦⑧を除く13基に設置）



良寛の里美術館 企画展④ 良寛をめぐる人びとと良寛の魅力－西郡久吾とその教え子たち－

- 1 期間 11月18日（土）～12月24日（日）（※12/4休館）
- 2 時間 午前9時～午後5時
- 3 会場 良寛の里美術館（長岡市島崎3938番地 道の駅良寛の里わしま内
TEL0258-74-3700）
- 4 入館料 大人（高校生以上）500円、小人 300円
- 5 内容 大正3（1914）年に西郡久吾^{にしごりきゅうご}によって刊行された『北越偉人 沙門良寛全伝』は、良寛の業績を学問的に研究した最初の本でした。長岡中学校で教鞭をとっていた西郡の教えは、川上四郎（童画家）、堀口大学（詩人）、松岡譲（作家）らに影響を与え、長岡での良寛と貞心尼を敬愛する人びとの活動の源流になりました。
西郡久吾を基軸に良寛と貞心尼を敬愛した人びとの思いを探ります。

【 問い合わせ：和島支所産業建設課 菊池 TEL0258-74-3114 】



良寛略歴

西暦	年号	歳	事
一七八八	宝暦八	1	出雲の名家神官、横屋山本家に長男として生まれる。幼名 出雲丸。
一七五八	天明二	8	出家。光善寺(石井)の寺子屋で学ぶ。
一七五七	天明二	7	大森子(備前)入門。
一七五五	天明二	5	子隨筆を以て、曹洞宗光圓寺住職(兼)吟味のものと稱す。
一七五三	天明二	3	國仙に随行して備中(岡山)玉野(倉敷市)円通寺に赴く。
一七五二	天明二	2	國仙から書水修行の場を受け。
一七四九	天明一	9	備前(今治)の空庵に住む。
一七四七	天明一	7	岡山(赤松)国土寺境内の五合庵に住む。
一七四六	天明一	6	岡山(赤松)国土寺境内の五合庵に住む。
一七四五	天明一	5	五合庵に定住する。
一七四四	天明一	4	中山(出雲)の西園庵に住む。
一七四三	天明一	3	冬は「神社事務所」之子態に住む。
一八二四	天明一	4	貞心尼、医師の関与と結婚し、小島(島根)に住む(十歳)。
一八二六	天明一	6	この冬より子態定住。
一八二〇	天明一	一〇	貞心尼、離れ、出家して柏崎(新潟)に赴く(二十三歳)。
一八二六	天明一	九	島崎の僧尼、木村家境内の庵に移住する。
一八二七	天明一	一〇	貞心尼、福島(長岡市)の閑庵に移り、秋に社面を遷す。
一八二八	天明一	一一	島崎隆興寺の大蔵経由來記を書く。良寛が閑庵と貞心尼を訪ねる。
一八三二	天明一	一五	正月八日遷化。正月八日葬式。
一八三三	天明一	一六	良寛墓建立。
一八三五	天明一	一八	貞心尼、良寛歌集「はちすば通り」を完成。
一八七二	明治五	七十四	二月十一日、柏崎で貞心尼逝去(七十五歳)。



君にかん
まだ
あひ見るここの
うれしさを
うれしさを
思ふ
ゆめをまた
良寛
かたむも夢む
ゆめの世に
かたむも夢む

良寛の里美術館

良寛とその愛弟子・貞心尼の書や詩歌を中心に、ゆかりの文人墨客の作品等を展示。建物は、良寛と貞心尼をイメージしてつくられた。

良寛の里美術館

良寛とその愛弟子・貞心尼の書や詩歌を中心に、ゆかりの文人墨客の作品等を展示。建物は、良寛と貞心尼をイメージしてつくられた。

もてなし家

170年前の古民家を移築して建てられた、大人のガジェットソフトなどの特産品販売コーナーや良寛のすび、郷土料理だんご汁等の飲食コーナーがある。

木村家・隆泉寺

良寛は、終の住処として意気な晩年を木村家の小庵で過ごした。弟の由之、瀧澄や貞心尼に看とられながら74年の生涯を閉じた。

隆泉寺は木村家の菩提寺であり隣接する木村家の墓地には、良寛の墓がある。また、境内には良寛の托鉢像や経堂がある。

和島地域の紹介

- 和島の舟をこけて築かれた名産**
和島の舟をこけて築かれた名産。和島の舟をこけて築かれた名産。
- 和島オートキャンプ場**
和島オートキャンプ場。和島のオートキャンプ場。
- 任雲園**
任雲園。和島の任雲園。
- 村岡城址**
村岡城址。和島の村岡城址。
- 村岡神社**
村岡神社。和島の村岡神社。
- 妙法寺**
妙法寺。和島の妙法寺。

はちすば通り

良寛と貞心尼出逢いの地

良寛は晩年島崎の木村家に身を寄せ、足跡は6年間地域の入りと綴りながら日々を送りました。自らを厳しく律し、決して名利に惹かず修行をし続けてきた良寛が生きて唯一の許しを許したといえる良寛と貞心尼の出逢ったこの地「島崎」です。

良寛が74才で遷化するまで二人の交流が続き、数多くの相聞歌を残されています。貞心尼は良寛が亡くなった後、その相聞歌を歌集として書き残しています。その歌集は「蓮の露」として、現在まで二人の相聞愛の美しさが伝えられています。

平成3年、「こを訪れる人たちに当時の良寛と貞心尼の清らかな交流の一端を感じてもらいたい」との思いから、木村家から良寛の墓までの通りを「はちすば通り」と名づけたました。蓮の露の上で揺れる朝露は一点の濁りもない清純なものです。「蓮の露」は「はちすば通り」を歩くとその心が清らかなになり、良寛と貞心尼の心を感じることができるとも思っています。

この通りには、良寛が晩年を過ごした木村家・木村家の菩提寺・隆泉寺、木村家の墓地にある良寛の墓と弟・由之の墓、子どもとくればはをこけて建てた延喜式内社・赤良神社や、法華・遍照の墓のある古刹・妙法寺があり、はちすば通りと良寛と貞心尼の足跡に触れることができます。

またその当時から変わらない国上山の遠景と雄大な空が見守り、心地よい風が吹いてくれます。



交通のご案内

●JR上越新幹線 / 東京駅から長岡駅下車
●北陸自動車道 / 西山ICより20分
●北陸自動車道 / 中之島見附ICより20分
●北陸自動車道 / 長岡北ICより20分
●JR越後線 / 小島台駅下車徒歩10分 (島崎橋まで)

●問合せ先 長岡市和島支所産業建設課
長岡市小島谷3434番地 4
TEL 0258-74-3114
URL / http://www.city.nagaoka.niigata.jp

